

「千の風になったじいちゃん」

田中 千尋（徳島県徳島市／小学四年生）

私のじいちゃんが一番かわいがってくれたじいちゃん。そんなじいちゃんは、二月十五日九時一分じいちゃんの世界を去った。

もっと一緒に遊びたかった。

いろんな事をしてほしかった。

材木店の仕事の手を休め、ラジオを聞いてくれるじいちゃんを思い出す。

「泉木材店をさしもあがじいちゃん。」「がんばおみや、千尋もラジオの音が聞こえる感じがする。

せわじいちゃん、時々じいちゃん、とても楽しい。さうじいちゃんだった。

じいちゃんの日記を見してみよう。

「十月十三日（土曜日）晴れ 千尋、一成、美空、煌太、遊びに来る。」と書いてあった。

知らぬ間に私たちの事がいっぱい書かれていた。読んでると泣いてしまった。

時々、じいちゃんのお墓に行こう。

おじいちゃんな事を話す。

「天国じいちゃんのこと。」

「おじいちゃんまたおじいちゃんや、またまた帰って来よう。」

じいちゃん、おじいちゃん、おじいちゃん、おじいちゃん、おじいちゃん。